

下北Jrウィンドオーケストラ (青森県)

文化施設

その他の市

小学生

音楽

所在地	青森県むつ市	設立	2019年
運営主体	下北文化会館 むつ市、むつ市教育委員会、青森県吹奏楽連盟、下北地区吹奏楽連盟、海上自衛隊大湊音楽隊、(株)東京堂（指定管理者）		
きっかけ	むつ市は少子化が進んでおり、各学校で個別の部活動を継続することが困難になり、小学校の部活動が2018年に廃止された。運動部は保護者の協力や市スポーツ少年団との連携により比較的簡単に地域に引き継がれたが、吹奏楽部、合唱部等の文化部は部活動が停止してしまっ。過去には東北大会レベル、全国大会レベルで活動していた部活動もあったことから部活動の廃止が惜しまれており、部活動を希望する児童をサポートしたいという意思のある大人たちによって本事業が立ち上がった。		
団体・組織等の連携			
活動場所	下北文化会館（青森県むつ市）		
活動概要	下北ジュニアウィンドオーケストラは、株式会社東京堂が指定管理者として管理運営している下北文化会館の事業として令和元年に立ち上げた。下北管内の小学1年生から6年生までの児童が学校の垣根を超えて、地元の文化の拠点であり唯一のホールである下北文化会館に集まり練習に励んでいる。行政をはじめ民間団体等から応援で活動中である。		

本事業による成果

参加生徒の声・事業の成果

- 参加児童は技術の向上だけでなく、不登校ぎみの児童が本事業に参加でき、学校や学年の垣根なく友人ができるなどの副次的な効果が得られている。また、保護者からは、学校では行えない専門的なレッスンができる場としても認知されている。
- 子どもたちの進学予定の中学校へ取組を周知しているため、小学校から中学校への活動の連携が取れている。中学生になってからも吹奏楽部として活動する子どもが多いようである。



大ホールでの練習の様子



自衛隊指導日の自衛隊指導の様子

児童・生徒への指導に関する工夫

指導者の工夫

- ・ 地元音楽家のうち児童に対して楽しく指導ができる音楽家を指導者として選定している。指導者は登録制で、外部講師として自衛隊の「大湊音楽隊」による指導もある。2020年度はむつ市長や海上自衛隊総監の支援もあり、指導頻度が月1回程度まで増加した。
- ・ 楽器ごとに分かれて指導を行うが、運営事務局員が各パートの練習場所を巡回し、初回参加者等のケアを行い、間口を広げる工夫を行っている。また、子どもたちに合わせたオリジナルの基礎練習も提供している。

継続的運営に関する工夫

活動に必要な用具・道具の調達

- ・ 各小学校の部活動で使っていて部活動廃止により不要となった楽器を、むつ市にて整備した後、下北文化会館に無償で貸し付けている。参加者にそれぞれ楽器を貸与し、参加者は自宅に持ち帰る。大型の楽器等は文化会館の空きスペースに保管している。楽器を壊した場合は壊した児童（保護者）が修理費用を負担する。ただし、経年劣化は無償修理を実施する。これは運営主体が楽器店を行っていることにより支援ができています。

活動経費

- ・ 主な収入源は月謝及び寄付金、主な支出先は楽器等の道具代及び外部講師への謝金である。みちのく銀行の運営する「公益財団法人みちのく・ふるさと貢献基金」の助成金への応募や、地元奉仕団体からの寄付により初年度の運営や備品等の整備を行った。今後は、演奏会を有料化した収益や演奏依頼に対する謝金等も活動資金として活用していく予定である。

行政との連携体制

- ・ 本事業における特徴的な連携として自治体との連携が挙げられる。本事業において外部講師として自衛隊の「大湊音楽隊」による指導も、自治体からの協力依頼により実現したものである。自治体との連携が得られた理由として、運営主体が施設の指定管理団体であり、日常的に自治体職員との連携があったことが挙げられる。

参加者 (予定人数)	下北管内の小学1年～6年生 44名（男：14名・女：30名）※2020年7月現在 毎年30-50名程度で推移		
募集方法	チラシによる募集。市内小学校全校に対してチラシ配布の協力を依頼している。		
指導者	外部人材を活用 ・指定管理者兼指導者（3名） ・外部専属コーチ（8名） ・海上自衛隊大湊音楽隊による臨時指導（年2回程度）		
移動手段	保護者による送迎		
活動費用	施設使用料 無料 楽器使用料 無料 講師謝礼 2,000円/回（2時間）×実施回数を毎月支払 その他 楽譜購入/楽器購入/大会参加費 等	活動 財源	寄附金 1,683,000円 会費 月額2,200円
スケジュール	基本活動	年間40回。土・日・祝を基本に1回2時間（午前・午後・夜間のいずれか） ※現在はコロナ対応として、全館貸し切り使用できる曜日・時間に各部屋、各楽器毎に分かれて活動中。（例：±18時-20時等）	
	年間 スケジュール	7月/劇団わらび座（秋田県）によるダンスワークショップ 8月/成果発表会&お楽しみ会、夏休み強化練習プログラム 9月/むつ市イベント出演×2回 10月/吹奏楽祭単独出演 12月-1月/アンサンブルコンテスト、成果発表会&お楽しみ会 2月/自主練習として練習室の開放（指導無し） 3月/1年間の成果発表（ありがとうコンサート）	
保険加入等	施設保険による		

荊崎地区文化・スポーツクラブ (茨城県)

地域団体	その他の市	小・中学生	音楽	
所在地	茨城県つくば市		設立	2018年
運営主体	荊崎地区文化・スポーツクラブ			
きっかけ	生徒数約200名程度の小規模校において、生徒数の減少や教員の働き方改革等の課題に対処するため、当時のPTA会長及び校長が中心となり、子供たちに安定した部活動の機会を提供することを目的とした市民団体「荊崎地区文化・スポーツクラブ (KCSC)」を設立した。			
団体・組織等の連携				
活動場所	荊崎学園つくば市立荊崎中学校			
活動概要	学校と地域が協働した受益者負担型クラブにおいて、部活動と並行して吹奏楽、サッカー、バレーボール、卓球、テニス、ハンドボールの6種目を対象に活動する。指導を外部委託することで教員の働き方改革を実現しながら、生徒や保護者の多様なニーズに応え、生徒の文化・スポーツ活動の継続を地域一体で支援する。			

本事業による成果

参加生徒の声・事業の成果

- KCSCへ入会した生徒からは、「専門的な指導により、技能が向上した」という声が多くある。また、学校部活動では活動時間の制約が大きい冬期もKCSCで練習時間が確保できることは嬉しいという意見もある。
- 文化部活動・運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインを遵守し、KCSCの活動日確保のため、学校部活動の活動日を平日は週3日、土日はいずれか1日のみとしている。これにより従来は部活動終了後に実施していた会議や研修、教材研究、学級事務等の開始時間を繰り上げられ、教員の勤務時間短縮につながっている。



ユナイテッドサンガイア選手による指導



茨城県吹奏楽連盟職員による指導

児童・生徒への指導に関する工夫

指導者の工夫

- 地域の連盟やプロスポーツチーム等に所属する方に指導を委託している。専門的な知識をもつ指導者から指導を受けることで、生徒の技術習得や意欲向上、保護者の理解につながっている。
- 事務局が外部指導者の確保・派遣を行っている。

運営上の工夫

活動場所

- 校長の判断により、学校施設開放事業の利用団体としてではなく、KCSCに対して学校施設を開放している。鍵の貸し出しは教員が行っている。
- KCSCの参加者は荃崎中学校の生徒、または将来的に本校の生徒になる可能性のある児童であるため、他の市民活動より優先して施設利用を許可している。
- 荃崎中学校の学校部活動は平日週3日（火、木、金曜日）及び土日いずれか1日のみに限定しており、学校部活動の活動日以外の日時にKCSCが学校施設を利用している。

活動経費

- 児童・生徒から会費を徴収している。
- 行政機関の助成金やクラウドファンディングを用いた資金調達により、活動資金を確保している。

継続的な運営に関する課題・展望

- 会費を上げることなく、かつ補助金に頼らない自立した運営を目指すためには、賛助等による資金確保の必要がある。
- 生徒のモチベーション維持のためには、クラブ独自の成果発表や交流の機会を設けることが望まれる。
- 専門家の技術指導が受けられる点、任意参加で意欲ある児童・生徒のみが参加している点から、指導面、内容面の評価は高く、課題は発生していない。
- 今後は近隣校の同様のクラブとの連携等を行い、運営基盤を強化していきたい。近隣校に設置しているクラブと合同で練習を行うことで、児童・生徒が参加できる種目の増加や活動費用の削減が期待される。

参加者	対象 荃崎学園に在籍する小学5年生～中学3年生 ※つくば市では小中一貫教育を推進 実績 全体 20名程度 うち吹奏楽 3名（男性：0名、女性：3名）※2020年10月現在	
募集方法	年度末に次年度の入会申込書を生徒に配布するほか、校内にコーナーを設け入会申込書を常に設置。加えて、3ヶ月ごとの会費徴収時にメールで参加者を募集している。	
指導者	地域団体より指導者を派遣。 • 吹奏楽 茨城県吹奏楽連盟 • サッカー つくばFC • バレーボール つくばユナイテッドサンガイヤ • 卓球 見守り活動 外部コーチ（地域ボランティア） • テニス つくテニ • ハンドボール つくばHC	
移動手段	徒歩・自転車、保護者送迎	
活動費用	指導者謝金 6,600円/回 ※見守り謝金 1,000円/回 事務局委託費 30～40万円程度/年	
活動財源	市補助金 会費 1,500円/月 ※見守り活動の場合は 500 円/月 寄付 1,336,000円 ※クラウドファンディングによる（募集終了：2020年2月）	
スケジュール	基本活動	月2～3回、2時間/回 ※部活動のない日時にて実施
	年間スケジュール	特になし
保険加入等	スポーツ安全保険への加入	

地域部活・掛川未来創造部 Palette (静岡県)

地域団体	その他の市	中学生	複数種目	
所在地	静岡県掛川市		設立	2018年
運営主体	特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部 (2020年7月まで「一般社団法人ふじのくに文教創造ネットワーク」が運営)			
きっかけ	家庭の経済状況に関わらず子どもが多様な文化・芸術体験を積むことができるようにするため、継続的、分野横断的な課外活動として中学生を対象とする総合文化系「地域部活」を創設した。掛川市では部活動による教員負担軽減や少子化等への対応を推進していたことから、学校の部活動に加え、本活動を「地域部活動」として承認された。			
団体・組織等の連携				
活動場所	掛川市美感ホール (静岡県掛川市)			
活動概要	地域部活・掛川未来創造部 Paletteは、静岡県文化プログラムの助成を受け2018年に創設された。地域の団体（一般社団法人「ふじのくに文教創造ネットワーク」）が創設し、現在（特定非営利活動法人「日本地域部活動文化部推進本部」）を運営主体とする事業である。掛川市内の全中学生を対象に部員を募集し、音楽、演劇、ダンス、総合アートなどの表現分野と、台本、演出、舞台技術など制作分野を融合した総合文化部として活動している。法人スタッフが主導し、行政・教育委員会等の地域の多様な組織と連携して運営している。外部講師（アドバイザー）は法人本部によるオンライン配信を行っている。			

本事業による成果

参加生徒の声・事業の成果

- 表現、制作、運営すべての活動に生徒が自主的・主体的に携わることにより、活動内容の多様性や個性の尊重がより育まれ、これらが生徒に充実感や自己肯定感向上をもたらしている。この結果として、教育的効果の向上と活動の楽しさの双方を実現することにつながっている。
- 生徒から実際に聞かれた声として、「人前で恥ずかしくがらず表現できるようになった」「裏方に興味があったため、制作スタッフができることがよい」「みんな楽しそうで居心地がよい」などが代表的であった。



オリジナル脚本・演出による創作劇の野外上映 (2019年)



プロのアーティストとのコラボステージ (2019年)

児童・生徒への指導に関する工夫

指導者の工夫

- 運営スタッフ、部活動顧問、副顧問は法人内のメンバーが担当する。顧問、副顧問は「見守り役」に徹することができるよう、外部に発信する活動については大卒の活動テーマのみ「プロデューサー」（理事が兼任）が設定し、部内発表会や日々の活動の内容や方法は生徒が主体となって検討・実施している。
- 音楽、演劇、ダンス、総合アートなどの表現分野、台本、演出、舞台技術などの制作分野、部活全体を動かす運営分野、それぞれの専門家をアドバイザーとして招き、2020年より主にオンラインでワークショップや講話などを実施し、生徒の創作活動のヒントを提供している。

運営上の工夫

学校との連携体制

- 掛川市内中学校では、生徒が加入できる部活動の種類として、学校部活動と地域部活があり、本活動は地域部活として部活動リストに掲載されている。これにより、市内の全中学生の参加が可能である（2021年度から高校生の地域部活を新たに創部）。
- 学校教員は運営に直接関与せず、活動見学や顧問が年1回取りまとめる活動報告の確認をし、活動状況を把握している。また、地域でのイベント実施の際には教育委員会と連携し、学校教員への地域部活の内容の周知も行っている。

活動経費

- 主な収入は静岡県文化プログラム「地域密着プログラム」採択による助成金であり、主な支出は活動場所として使用する施設使用料、外部講師の謝礼等である。試行段階であった2017年度から4年間活用してきた。
- 2021年度以降は助成終了のため、活動費用の予算縮小が求められる。平日週2回を基本とし、テレ部活（オンライン）を実施したり、法人の事務所内のスタジオを活用するなど、活動のバリエーションは保ちながら、極力活動経費を削減するほか、保護者から定額の部費（1000～2000円程度）など活動費用を徴収する。（今後、地域経済の復興と共に地元企業の協賛支援を募集）。

参加者	掛川市内の中学1～3年生 42名（1年生：23名、2年生：4名、3年生：15名） ※2020年11月現在	
募集方法	市内の各中学校にて、部活動加入希望時に募集。加えて、2月に小学校6年生を対象とした部活体験&説明会を実施。	
指導者	表現・制作・運営の指導等：外部の人材をアドバイザーとして活用（年数回） 顧問・副顧問：法人内のメンバー（元学校教員等、教育的知見を有する人材が中心）	
移動手段	保護者による送迎、自転車、公共交通機関（バス等）	
活動費用	施設使用料 80-90万円/年（ホール、会議室2部屋を同時使用） 講師謝礼 5,000-1万円/回（1時間）、年間8-10回程度（ワークショップ、講話、鑑賞プログラム）	
活動財源	助成金 2,000,000円	
スケジュール	基本活動	年間100回程度。平日（火・木曜日）の2時間が基本。週末（土or日曜日）はイベントの本番やリハーサル、移動教室を行う際に活動。現在はコロナ対応として、Zoomを使用した「テレ部活」をスタート。
	年間スケジュール	年1回、「地域部活プレゼン&パフォーマンス」にて地域部活の取り組みを発信 7月、12月、3月の年3回、部内での発表会（様々なコラボへの挑戦機会） 秋に地元の地域芸術祭等に参加
保険加入等	スポーツ安全保険（文化活動も対象）年間一人1,400円 ※全体集合する部活動のほか、各自宅で行う「テレ部活」も補償	

矢野ジュニアマーチングバンド (広島県)

地域団体

指定都市

中学生

音楽

所在地	広島県広島市	設立	2019年
運営主体	矢野ジュニアマーチング教室		
きっかけ	教員の働き方改革及び部活動の指針に基づき、部活動の活動時間が制限される中で、マーチングバンドの全国大会に出場したこともある強豪校である広島市立矢野中学校吹奏楽部のマーチングバンドの活動を支援することを目的としている。矢野中学校吹奏楽部の顧問である、非常勤講師・部活動指導員が学校長の理解の下、2019年に本活動を立ち上げた。		
団体・組織等の連携			
活動場所	矢野小学校体育館を中心に、近隣の体育施設		
活動概要	矢野ジュニアマーチングバンドは、矢野中学校吹奏楽部の部員を中心に活動している。毎週土曜日の午後、1回4時間程度、学区内の小学校体育館（学校体育施設開放事業を利用）や近隣の体育施設を借りて活動している。講師は、吹奏楽部の顧問1名（非常勤講師・部活動支援員）を中心として、吹奏楽部の卒業生や日本マーチングバンド協会の指導者資格保有者が務める。		

本事業による成果

参加生徒の声・事業の成果

- 体育祭で演奏を披露した結果、1年生や各教職員から事業を認知いただき、部活動の新しいやり方としての理解を得ることができた。部活動顧問に負担を感じている教職員からも外部指導員を付けることに前向きな意見が出ていた。理解が進むことで、将来的に1校当たりの外部指導員の制限が撤廃され、別の部活動においても部活動顧問をしている教員の負担軽減につながる可能性がある。
- 指導者として意欲を持たれている先生方にとっては、部活動の内容や質を向上する取組としてよい受け皿になる。また、地域の優れた人材を青少年育成の現場に招くことができる。



児童・生徒への指導に関する工夫

指導者の工夫

- 部活動と本活動の分担として、部活動では吹奏楽の指導を中心にマーチングバンドも取り扱い、本活動ではマーチングバンドの指導を中心として実施している。
- 部活動と本活動の範囲を明確化するため、部活動で扱う楽曲と本活動で扱う楽曲を異なるものとしている。部活動として実施する楽曲については、本活動に参加していない吹奏楽部員も参加できる。

継続的運営に関する工夫

活動に必要な用具・道具の調達

- 中学校の吹奏楽部で利用している楽器類を利用している。中学校の楽器類の搬出・搬入は、中学校の部活動指導員を兼務する本活動の指導者の監督の下で行っている。大きな楽器の持ち出しは難しい等、中学校の備品である楽器の外部持ち出しの制約が課題である。
- 地域団体の活動として学区内の小学校の学校体育施設開放事業に参加し、小学校体育館を練習に利用している。本活動は中学校部活動とは切り離して運営しているため、中学校施設を練習に利用することはない。

校内からの理解

- 通常の部活動と同じく定期試験前は活動を休みにするなど、学校暦に配慮したスケジュールとしている。
- 本事業は部活動の内容・質を高めるための取組であり、「勝つための活動なのか」「演奏スキルを高めるために勉学を疎かにするのか」等の反発を生む可能性があったが、本事業に参加している生徒は授業態度・生活態度が良く、学校生活に対してもよい影響が出ている。団体設立者が学校の教育目標や学生のありべき姿を理解し、取組が学校生活へ良い影響を生んだことで校内からの理解が得られている。

地域からの理解

- 練習場所である小学校の近隣住民への騒音問題発生を配慮し、体育館では演奏をしないフォーメーション（動き）の練習を中心としている。周辺住民への説明や発表会・演奏会への紹介等を通じて、徐々に地域住民の理解を得ているところである。

参加者	約50名	
募集方法	矢野中学校吹奏楽部参加者の中から募集。	
指導者	<ul style="list-style-type: none">中学校非常勤講師・部活動指導員が活動を調整・指導。矢野中学校吹奏楽部の卒業生及び日本マーチングバンド協会の有資格者が外部講師として指導。	
移動手段	徒歩	
活動費用	<ul style="list-style-type: none">施設使用料：6-8時間程度で3000-3万円強（別途電気代：年間5000円程度）楽器使用料：中学校の楽器を利用するためなし講師謝礼：3,000円/回 等	
活動財源	<ul style="list-style-type: none">会費：月額500円	
スケジュール	基本活動	<ul style="list-style-type: none">毎週土曜日14時から18時（4時間以内の活動）
	年間スケジュール	下記の予定であったが、コロナ禍により活動を自粛している。 中学校吹奏楽部、矢野ジュニアマーチングバンドのどちらかでエントリーするかは未定のものも含む。 4月：地域の運動会での発表 5月：広島フラワーフェスティバルパレード・地域のスポーツ大会でドリル演奏 6月：広島県マーチングバンド ステージフェスティバル 9月：広島県マーチングコンテスト 10月：マーチングインオカヤマ 11月：マーチングバンド 中国大会 2月：マーチングバンド ステージコンテスト全国大会 3月：スプリングコンサート
保険加入等	スポーツ安全保険	